

手術件数とアウトカムに関する外保連調査について（案）
【技術力に関する調査について】

（調査対象手術）

- 調査対象手術は、施設基準が設定されている110項目の手術とする。

（調査方法）

- 外保連に加盟している関係学会が、別表の調査内容に従って手術件数とアウトカムの関係に関するデータ収集を実施する。

（調査内容）

- アウトカムの具体的内容は調査学会に一任する。またアウトカムを左右するような患者の背景因子（年齢など）があればこれについても調査することが望ましい。
- 基礎データとは、手術時間、出血量、術後在院日数、手術死亡率など。
- 症例数が少なくて症例数とアウトカムの相関を検定することが不可能な場合は症例数のみ調査する。
- 既存のデータがあればそれを利用して、解析・検討することも可。
- 調査結果は可能であれば16年度中に提出。前向き調査などで不可能であれば、わかり次第報告。
- 調査結果は各学会の学術雑誌や学術総会で公表されることが望ましい。また、外保連としてその成果の要約を小冊子にとりまとめ公表する予定。

外保連 第11回手術委員会記録抜粋：平成16年9月2日（木）開催

2. 外保連手術試案精緻化のための実態調査について

資料1をもとに委員長より説明が述べられ、検討の結果、以下のとおり決定した。

- ・ 調査項目は（案）にあるとおりの5項目、医師数・看護師数・技師数・麻酔時間・手術時間とする。
- ・ 前向き3ヶ月の調査を行う。
- ・ K番号について調査する。
- ・ 併施の場合は省く。
- ・ 手術室で行う手術を対象とする。
- ・ インターベンション関連の手術は手術室ではなく、透視室で行うのでこの調査からはずれる可能性が高いのでインターベンション学会の関連施設に、外保連と連名で調査依頼することを検討する。

調査対象手術については、外保連試案に基づいた術式毎に調査すべき、術式を限定してはとの意見もあがったが、実際に外保連試案ごとにわけるとは難しいと思われること、対象とする手術と非対象の手術を選別すること自体が大変であることから、K番号で採用されている術式毎に調査することとした。

3. アウトカムと症例数の相関に関する調査方法およびその分担について

資料2を基に、2回に及ぶ手術打合せ会（7/15、8/5）の報告が委員長より述べられた。また、打合せ会でまだ決定していなかった事項について別紙のとおり調査内容を決定した。―別紙参照―

各学会主体で調査を進め、結果を外保連で取りまとめ、冊子を作成し関係者に配布、厚生労働省へ提出してはどうかと、委員長より提案され、検討の結果、承認された。

また当初、施設基準対象手術110項目について、外保連で基礎データ（出血量、在任日数、死亡率等）を取る予定であったが、データが一人歩きし誤解を招く可能性があるため、各学会の調査のみとすることとした。